



第41回日本美容皮膚科学会総会・学術大会
イブニングセミナー

日本美容皮膚科学会
Japanese Society of Aesthetic Dermatology

講演1

ロゼックスゲルを
活躍させる酒さ診療
～見えてきた診療での課題と実践～

座長

静岡社会健康医学大学院大学 学長・理事長 / 京都大学 名誉教授
宮地 良樹 先生

演者

はやし皮ふ科クリニック 院長
林 宏明 先生

酒さ・多汗症 治療最前線

講演2

クリニックにおける
多汗症診療

座長

愛知医科大学医学部 皮膚科学講座 特任教授
大嶋 雄一郎 先生

演者

鼻岡けいこ皮フ科クリニック 院長
鼻岡 佳子 先生

2023年 **8月19日(土)**
17:30～18:30

京王プラザホテル
第4会場 4階「錦」

〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1

共催：第41回日本美容皮膚科学会総会・学術大会 / マルホ株式会社

LINE公式アカウント

マルホLink®

知りたい情報が
すぐに見つかる



右の二次元コードをスキャンして
今すぐ友だち登録！



講演1

ロゼックスゲルを活躍させる酒さ診療 ～見えてきた診療での課題と実践～

はやし皮ふ科クリニック 院長 **林 宏明 先生**



2022年5月、ロゼックスゲルが海外に遅れて日本でも「酒さ」に保険適用追加となりました。酒さの患者さんにとって海外の標準治療薬が国内でも用いられるようになったのは朗報であります。酒さは30～40代の女性に多く、頬部や鼻を中心に持続性の暗赤色の紅斑が形成されます。非典型例や早期例では、脂漏性皮膚炎、接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、尋常性ざ瘡と診断され、それらの治療薬が処方されている例も多くみられます。なかには、ステロイド、タクロリムスなどの免疫抑制作用を有した外用剤を用いることによって酒さの悪化(酒さ様皮膚炎・口囲皮膚炎)を生じた例も経験します。これらの外用剤の中止に伴いリバウンド症状が生じる例にも遭遇し、対応に苦慮することもあります。これらの症例はベースに酒さをもっている方が多く、早期に酒さと診断し、適切な治療を行うことで酒さの悪化を減らせることにつながると思われます。

酒さ診療においては、他の皮膚疾患と異なり悪化因子が多いのも特徴です。悪化因子を除外することも重要であるため、悪化因子を聞き出すために問診を適切かつ丁寧に行う必要があります。内服抗菌薬も酒さの丘疹・膿疱のコントロールに有効であり、酒さの紅斑についても減弱させることが期待できます。また、パルスダイレーザーやIPL(Intense Pulsed Light)は紅斑・血管拡張型の酒さにおいても有用です。今回は日常診療で遭遇する非典型例や外用剤によって酒さが悪化した方の治療例、酒さ患者さんへの問診・指導法などを紹介し、当院でのロゼックスゲルのアドヒアランスを上げる工夫を含めて紹介します。

ご略歴

2002年 川崎医科大学卒業

2004年 川崎医科大学 皮膚科学 臨床助手

2010年 医学博士

2012年 川崎医科大学 皮膚科学 臨床助教

2014年 川崎医科大学 皮膚科学 講師

2020年 はやし皮ふ科クリニック 院長／川崎医科大学 臨床講師

講演2

クリニックにおける多汗症診療

鼻岡けいこ皮フ科クリニック 院長 **鼻岡 佳子 先生**



原発性腋窩多汗症の治療は、以前まで塩化アルミニウム外用液(保険適用外)と、重症患者へのA型ボツリヌス製剤の局所注射が主な選択肢であった。しかし、2020年に原発性腋窩多汗症に保険適応となる外用抗コリン薬が発売され、さらに2022年に同種のラピフォートワイプが発売となり、近年の腋窩多汗症の治療は進歩していると言える。

本年にはこれらの内容を踏まえて国内の診療ガイドラインが改訂となり、腋窩多汗症診療は新たな時代を迎えている。

また、臨床の現場においても医療機関に受診する腋窩多汗症患者さんは増加している印象がある。一方で、その後の受診継続率が低いため、処方した薬剤の効果を患者さん自身が実感しているかが不明瞭である。本講演では、多汗症患者さんが持っている悩みや目指している治療ゴールを紹介し、外用抗コリン薬の処方経験から得た印象や当院での腋窩多汗症治療薬別の再受診率のデータを考察も加えて紹介する。

ご略歴

2003年 北里大学卒業

2003年 広島大学病院 皮膚科

2004年 県立広島病院 皮膚科

2007年 尾道総合病院 皮膚科

2009年 湘南鎌倉総合病院 形成美容外科

2010年 土谷総合病院 皮膚科 科長

2013年 広島大学 皮膚科 中電病院皮膚科レーザー担当医

2018年 広島大学 皮膚科 助教

2019年4月 鼻岡けいこ皮フ科クリニック開業 院長